

平和行進活動交流ニュース

発行：原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会事務局団体・日本原水協
電話：03-5842-6035 FAX:03-5842-6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com

2019年
5月24日
発行

核兵器全面禁止・廃絶の声を広島・長崎・世界へ届けよう

【東京→広島コース 神奈川から静岡へ引き継ぎ】

原水爆禁止国民平和行進は5月19日に神奈川での13日間の日程を終えて、無事静岡に引き継ぐことができました。前日の18日には国際青年リレー行進者のキャロル・テア・サンタ・マリアさん(フィリピンサンゴ礁・熱帯雨林募金保護募金政策提言・広報担当、愛称はチャーリー)が神奈川の行進団と合流しました。チャーリーさんは静岡県内を行進し、次の引き継ぎ地点である愛知で待つガリレオ・カスティーリョさん(フィ



リピン)へのバトンタッチをめざして歩きます。5月6日夢の島の出発から19日まで東京→神奈川の国際青年リレー行進者で今回5回目の平和行進を歩いたA・Gサニョさん(フィリピン/アート・アタック・グループ創設)は、21日にフィリピンに帰国しました。原水爆禁止2019年世界大会で再会できるのを楽しみにしています。

神奈川県平和行進の最終日である19日の朝の出発集会では、神奈川県平和行進を構成する県原水協・県生協連・県原爆被災者の会、県内通し行進者などから挨拶がありました。

県原水協からは、「実行委員会の皆さんをはじめとして、宣伝カーの運転や全国通し行進者、県内通し行進者、国際青年リレーの方、わかやま市民生協の方、そして連日青い旗を持って行進の先頭を歩いていただいた県原爆被災者の会の皆さんが平和行進の成功のためにそれぞれが大きな役割を果たして下さいました」との感謝の挨拶がありました。

県生協連からは、「核兵器のない世界を実現したいとする被爆者たちの願いは私たち自身の願いでもあり未来の子どもの願いでもある、そしてユーコープの新入職員のみなさんと神奈川平和行進のシンボルカラーである水色の風船を持って楽しく行進したい」との元気が出る挨拶がありました。

県原爆被災者の会からは、「核兵器の廃絶と核兵器禁止条約の成就を願い、今年の平和行進も先頭を歩かせていただきました。皆さんに感謝したい」との挨拶がありました。

県内通し行進者の方は、「私は長崎で祖父・祖母・叔母を亡くしました。行進中に祖父・祖母・叔母の音が聴けたらと思いました。でも聞こえません。死者は語るできません。語るができるのは、生きる私たちだけです。私たちの思いを声にしていきたいと思います」と平和行進への思いを述べました。

神奈川県での平和行進最終日とのこともあり、多くの方が行進に参加し、一人ひとりの思いのこもった手作りのアピールグッズもたくさん見られ、核兵器廃絶への大きな希望を持つことができた平和行進でした。静岡県との引き継ぎ前の休憩地点では、湯河原町の富田幸宏町長にお越しいただき、以下のメッセージをいただきました。

「平和行進にご参加の皆様、ようこそ湯河原町へお立ち寄りくださいました。世界の恒久平和を求め行動される皆様の努力に心より敬意を表します。我が国は世界で唯一の被爆国であり、広島・長崎での悲劇を二度と繰り返さないという固い決意のもと、核兵器の廃絶と戦争の悲惨さを力強く訴えなければなりません。一昨年の核兵器禁止条約の採択や核兵器廃絶国際キャンペーンのノーベル平和賞受賞により、核兵器の全廃と根絶に向けて世界中が一つになる中、南北首脳会談・米朝首脳会談などの実現など核兵器廃絶に関する出来事がクローズアップされ、これまで以上に平和に対する世間の関心が高まっています。この核兵器廃絶への大きな流れを実現にむけて推し進めていくためにも、国民一人ひとりが一体となり、今以上に粘り強く声をあげていく必要があります。将来をにう子どもが安心して暮らせるよう、また核兵器の恐ろしさと平和の尊さを伝え続けられるよう、町長におきましても日本非核宣言自治体及び平和首長会議への加盟を通じて微力ではございますが、平和の普及に努めてまいります。最後になりますが、平和行進の成功とご参加のみなさまの今後のご健勝を祈念し、メッセージとさせていただきます」

静岡との引継ぎ集会は県境の湯河原町の千歳橋川端公園でおこなわれました。リレー横断幕を手に、東京→広島コース通し行進者の小林和江さん、わかやま市民生協の須磨淵三央さん、国際青年リレー行進のチャーリーさんが静岡に渡りました。5月19日は静岡県母親大会が開催されていて、例年よりは参加者が少ないとのことでしたが、静岡の行進団の皆様の温かい歓迎があり、平和行進をまた歩きたいと思いました。(事務局・嶋田)

